

令和7年度下関市立病院経営強化プラン評価委員会議事録【概要】

令和7年7月30日（水）14時00分～15時20分

下関市立唐戸保健センター 多目的ルーム

下関市立病院経営強化プラン評価委員会

：上野委員長、田中委員、湯木委員、塚原委員、山田委員

下関市保健部

：八角部長、高橋所長、藤井部次長、藤永部次長

（豊田中央病院事務局）三好事務局長ほか1名

（地域医療課）荒川課長ほか2名

1. 開 会

2. 下関市保健部長あいさつ

3. 委員紹介、事務局紹介、委員会説明

4. 議 事

（1）豊田中央病院の自己評価について

《豊田中央病院事務局より評価表について説明》

《地域医療課より事務局評価について説明》

＝質疑応答・意見等＝

1 役割・機能の最適化と連携の強化

（1）地域医療構想等を踏まえた病院の果たすべき役割・機能

評価委員会 病床利用率が、令和5年度よりより少し増えたものの、計画値を大きく下回っており、休床病床の再開の見通しが立っていない。医師数をもっと多いことを前提とした計画であり、明らかに計画に達していない。

豊田中央病院の周辺の人口などを勘案すると、この計画そのものが少し無理な計画であり、病床利用率は現状の数値くらいに落ち着くのかもしれない。

病床の再開について、目標が高すぎたのか、患者が減ったのか、医師が少ないのか。医師不足は全国的な問題でもあり、病院としても医師確保に尽力しているので、そのあたりを考慮して評価してもよいのでは。

数字で判断すると、評価1でやむを得ないと思う。計画が実態に則していないということであれば、目標を見直さないといけない話になるのではないかな。

豊田中央病院 休床病床の再開には、病床利用率が稼働中の60床ベースで8割程度は必要になってくる。

(3) 機能分化・連携強化

評価委員会 逆紹介率が計画を上回った点は非常に良いが、他の2つが未達であり、評価2が妥当と思う。

令和7年度は常勤の眼科医が確保できたので改善されるのではないかと推察されるが、令和6年度については、この数値でいくと、やや遅れていると言わざるを得ない。

(5) 一般会計負担の考え方

評価委員会 操出基準に則っているか否かが評価の分かれ目。操出基準からはみ出した補助が必要だった、ということを考えると、計画にはなかった操出になるため、評価を下げざるを得ない。

資金ショートというのは非常に大きな問題であり、襟元を正すためにも、低い評価にすべきではないか。

地域の方々の保健・福祉に役立つために、市としてそれなりの負担があっていいのでは。

事務局 令和5年度・6年度は、医師が計画どおり確保できず、やむを得ない状況であるということで、操出基準外の補助を

行った。7年度は、病院の努力により計画どおり確保することができており、収支について、徐々に改善される見込みである。

(6) 住民理解のための取組

評価委員会 様々な形で地域住民との交流を図ることで住民の健康意識の向上と医療への理解促進に努めており、もっと評価を上げてよいと思う。

6 経営の効率化等

(3) 経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画

評価委員会 医師不足が原因で、多くの目標の数値が達成できなかったことが明らかであり、問題のあるレベルと考える。

収入を増やすためには病床利用率が重要になるが、どのような患者を診ることが得意か、自院の強みを明確にさせておく可他院が紹介しやすい。また、開業医の少ない地域なので、外来の患者を増やすことも研究すべき。

今年度は、医師の数も増えて、明るい兆しが見えているので、是非頑張っていたきたい。

(2) 下関市立病院経営強化プラン点検・評価書について

《地域医療課より評価書について説明》

了